

平成 30 年 1 月 9 日

全校集会校長講話

誇り高き巻高校の生徒諸君、新年おめでとう。例年に比べ少し長めの冬休みでしたが、正月返上で受験勉強に打ち込んだ人、家族や友人と楽しい時間を過ごした人、それぞれが有意義な時間を過ごしたことと思います。

1 月 4 日男子バレーボール部が春高バレー初戦に臨みました。学校からも生徒会応援団、吹奏楽部、ダンス部、野球部などバス 4 台で東京へ向かい、現地で合流した同窓生などを合わせ約 300 人で応援をしました。

試合は一進一退の攻防でしたが、惜しくも初戦突破はできませんでした。でも巻高らしい一人一人が持ち味を発揮した試合を行ってくれました。また、生徒、保護者、同窓生、先生方が心一つに応援できたことは何事にも代えがたい貴重なことであったと思います。

年末の女子ホッケー部全国選抜大会出場と合わせ、選手諸君は私たちに勇気と感動を与えてくれました。巻高校の歴史に残る活躍を大いに讃えたいと思います。

さて、新しい年が始まってもう 9 日、後期も残り 3 か月となりました。古来より使用されている故事成語に「画竜点睛」（がりょう てんせい）という言葉があります。意味は竜を描くとき、全身を描き終わると、最後に目の「ひとみ」を入れて完成させるのです。このことから、最後の部分に力を入れて、行い・物事を完成させることを意味するようになりました。これは、人生全般について言えることです。昨年 4 月以来、皆さんは各自の目標達成のため、懸命に努力を重ねてきました。「画竜」で言えば、竜の全体像を描き上げた時期にあたります。

そして、これからの 3 か月は最後の「ひとみ」を入れる時期にあたります。3 年次生は入試を含んだ高校生活最後の時期であり、1・2 年次生は次の年次を控えた時期であることを自覚して、一日一日を有意義に過ごしてください。そしてこの時期は自分の進路を考え、決定する時期でもあります。そのことについて参考となる話をします。

恋愛を科学的に分析する「恋愛学」の講義や若者の政治参加をテーマにメディアでも活躍する早稲田大学教授の森川友義（もりかわ ともり）さんは、若者へのメッセージとして「あなたは、なんのために生きているのか？」と問いかけています。皆さんは普段あまり考えてないし今言われても困るところでしょうか。森川さんは、ヒントとして他者は存在しないという前提で考えればよいとしています。若者はよく「他人を喜ばせたい」と言うが、あえて利己的に考えて欲しい。「自分のために何をしたいのか？」と。これまで、まわりの人に影響され、妥協したり犠牲になったこともあるでしょう。でもこれからの時代は「何をしたいのか」自分なりの答えを見つけるべきである。これが自立であると言っています。

たとえば進路や進学先を決めるとき、なぜその学校なのか、なぜ入りたいのか、なぜそう思ったのか。自分自身にしっかり向き合っただけで突き詰めて考えないと、自己発見はできないし、本当にやりたいことは見つかりません。でも自信をもって答えられれば、その後の生活や勉

強ががらりと変わります。皆さんの人生でときには、周囲の反対や妨害に遭遇することもあると思います。そのとき、他者を判断基準に進路や進学先を決めたら、その他者に裏切られたらどうなるでしょうか。失敗を他人のせいにして悔やんでも後の祭りです。信念をもち、自分の選んだ人生に納得していればどんな困難があっても乗り越えられるでしょう。

私も親に勧められた職では後悔すると思い教員の職を選びました。自分が選んだ道だからという思いが、長い職業人生を支えたと思います。

普段の学校生活では、周囲のことを考え行動することは大切であり巻高生の良さであるとも思います。でも進路の決定など、これからの人生を左右するようなときは、自分中心でよいと思います。まずは自分のやりたいことを発見し、それを実現するための手立てを明確にしていくことです。新年は始まったばかりです。1年の計を元旦に考えた人も多いと思います。「自分は何のために生きているのか」を突き詰めて考えてみてください。その答えが見つかったとき、ずっと強い人間として生きていけるはずです。

3年次生はセンター試験直前ですが、最後の1日まで学力は伸びます。1・2年次生は年次の総まとめと仕上げをしてください。皆さんがよき学校生活を送ることを願い講話を終わります。